

(社) 日本コンクリート工学協会四国支部

第1回「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事録 (案)

1. 日 時：平成18年10月24日(火) 13:30～15:45

2. 場 所：徳島大学工学部 建設棟4F セミナー室3 (A408)

3. 出席者：上田, 加地, 天羽, 石井, 一宮, 橋本, 堀井, 三浦, 水口, 横井, 横田, 横手, 渡邊 (敬称略, 順不同)

4. 配布資料：

- 1-0 JCI 四国支部「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」議事次第
- 1-1-1 フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会 委員名簿
- 1-1-2 2006.10.24 (九州電力：船本) JCI 四国支部「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」資料
- 1-2 JCI 四国支部「フライアッシュの有効利用と混和コンクリート構造物の耐久性に関する研究委員会」活動方針案
- 1-3-1 コンクリート委員会 フライアッシュ有効活用研究小委員会 委員構成 (案)
- 1-3-2 FA 有効活用研究小委員会 調査研究課題
- 1-4 論文「砕砂および銅スラグ細骨材を使用したコンクリートの細骨材の一部にフライアッシュを置換することによる品質向上」

5. 議 事：

(1) 委員長挨拶, 委員会発足の趣旨説明

四国は全国的に見ても良質のフライアッシュが産出しており, コンクリートへの利用も進んでいることから, フライアッシュコンクリートを対象として利用状況や新たな利用方法について調査するとともに, 耐久性の面からフライアッシュの適切な使用方法に関する研究を実施することにより, フライアッシュコンクリートをさらに普及させることを目的として, 活動期間を2年間として本研究委員会を設立することが上田委員長から説明された。

(2) 委員による自己紹介

今回出席の13名の自己紹介があった。また, 2名の追加参加が上田委員長から紹介された。

(3) 活動方針の確認

資料1-2をもとに, 上田委員長より委員会活動の方針案が説明された後, 具体的な調査, 研究項目等について議論を行った。その結果, 委員会を3つのワーキンググループ(WG)で構成し, 研究を進めるとともに, 設備見学や構造物視察等の計画も検討することとした。

また, 委員として国土交通省などの官公庁や混和剤メーカーへ参加の打診を行うこととした。

その他, 各WGでの検討項目等についての活発な質疑応答があった。

(4) 話題提供

資料1-3-1, 1-3-2をもとに, 上田委員長から土木学会コンクリート委員会で行われている「フライアッシュ有効活用研究小委員会」の活動状況について紹介があった。

また, 資料1-4をもとに, 加地幹事長から最近のフライアッシュコンクリートに関する研究事例の紹介があった。

6. 今後の活動予定について

- (1) 次回の委員会活動として, フライアッシュの産出個所である石炭火力発電所(愛媛県西条市: 四国電力(株) 西条発電所)の見学と周辺構造物の視察について, 1泊2日の行程で計画する。
- (2) 次回見学会時に第2回委員会を開催することとし, その時まで各WGでの活動方針や役割分担を立案し, A4サイズ1枚程度にまとめることとした。

報告者：加地  
以 上